

薬剤部 DI ニュース

★漢方薬のことでよく受ける質問をQ&A形式でまとめました★

Q1.なぜ漢方薬は空腹時の服用がよいといわれているのでしょうか？

A1、漢方薬の成分の多くは、腸内細菌によって、吸収されやすい効く形に変えられ効果を表します。そのため空腹時にのむほうが、速やかに腸内細菌のいる場所へ到達するわけです。それに食べ物などの影響、食べ合わせを防ぐためにも空腹時にのむほうがよいとされています。そのため漢方薬は特別な指示がない限り、食前または食間の服用をおすすめしています。しかし、味や香りなどが苦手で、どうしても食前または食間にのむと気分が悪くなったり、食欲が低下したりする人もいます。食後の方が飲み忘れないという人もいます。漢方薬はきちんと飲んでこそ効きますので、その場合はご相談下さい。

Q2.漢方薬はどのようにのむのがよいのでしょうか？

A2、漢方薬は水で服用してもかまいませんが、白湯に溶かして飲むのがよいといわれています。漢方薬は本来、生薬を煎じたまをのんでいました。漢方エキス製剤は生薬を煎じて出来た液を濃縮し、乾燥させたものですので、白湯に溶かすことで本来の形に近くなります。また、白湯は水よりも薬をよく溶かしてくれるので、吸収が速まる効果があります。

Q3.当センターにはどんな漢方薬がありますか？

A3、次の17品目が正式採用品となっています。

番号	処方名	効果・効能（一部省略）
1	葛根湯(かっこんとう)	感冒、鼻かぜ、熱性疾患の初期、肩こり、じんましん
7	八味地黄丸(はちみじおうがん)	腎炎、糖尿病、坐骨神経痛、腰痛、脚気、前立腺肥大、高血圧など
9	小柴胡湯 (しょうさいこうとう)	I. 諸種の急性熱性病、肺炎、気管支炎、感冒、胸膜炎、肺結核などの結核性諸疾患の補助療法、リンパ腺炎、慢性胃腸障害、産後回復不全 II. 慢性肝炎における肝機能障害の改善
14	半夏瀉心湯(はんげしゃしんとう)	消化不良、神経性胃炎、胃弱、二日酔、胸やけ、口内炎、神経症など
17	五苓散(ごれいさん)	浮腫、ネフローゼ、二日酔、下痢、悪心、嘔吐、めまい、頭痛、糖尿病など
19	小青竜湯(しょうせいりゅうとう)	気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、気管支炎など
20	防己黄耆湯(ぼういおうぎとう)	腎炎、ネフローゼ、肥満症、関節炎、筋炎、浮腫、皮膚炎、月経不順など
23	当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)	貧血、倦怠感、更年期障害、動悸、慢性腎炎、月経不順、月経困難など
24	加味逍遙散(かみしょうようさん)	冷え性、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症
29	麦門冬湯(ばくもんとうとう)	痰のきれにくい咳、気管支炎、気管支喘息
41	補中益気湯(ほちゅうえつきとう)	夏やせ、病後の体力増強、結核症、食欲不振、感冒、胃下垂
43	六君子湯(りっくんしとう)	胃炎、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐など
47	釣藤散(ちようとうさん)	慢性に続く頭痛で中年以降、または高血圧の傾向にあるもの
48	十全大補湯(じゅうぜんたいほとう)	病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血
68	芍薬甘草湯(しゃくやくかんぞうとう)	急激に起こる筋肉のけいれんを伴う疼痛
100	大建中湯(だいけんちゅうとう)	腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの
107	牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)	下肢痛、腰痛、しびれ、老人のかすみ目、かゆみ、排尿困難、頻尿、むくみ

(薬剂部 荻尾)